

「パノラマ大水槽ダイビング」の運営と参加者の反応

森 徹, 山口 絢子

(海の中道海洋生態科学館)

海の中道海洋生態科学館では、2002年1月より、通常の潜水では遭遇できない生物を間近で観察し、触れ合い、親しみ、生物たちへの興味をより増大させ、その生態を学んでいただくことを目的に、スクーバ機材を使用した企画「パノラマ大水槽ダイビング」を開始した。

同企画は、22種類、約150尾のサメ類を含む合計80種類約1万尾を展示しているパノラマ大水槽(水量1400 m³)で行い、開始より現在までに265名の参加があった。同企画の発案から実施までには約3年間を要し、その大半は参加者の安全を確保するためのマニュアルづくりであった。当館職員は1995年より、水槽清掃、潜水給餌等を目的に、同水槽での潜水作業を行っており、その間に起こった危険と思われるケースを項目化し、危険を回避する手段のマニュアル化を行い、「注意事項マニュアルビデオ」を作成した。

参加条件は16歳以上で、オープンウォータークラスのライセンス保有者とし、ビデオで解説するルールを厳守できる潜水技術を有していることとした。またその技術を確認するため、事前に「スキルチェック(潜水技術確認テスト)」を無料で受けていただくことにした。スキルチェックは、東京、大阪、広島、福岡に店舗を持つダイビングショップの訓練用プール(水深5m)を使用し、安全に参加するために必要な項目をチェックした。スキルチェックに合格した参加希望者は6ヶ月間有効の「認定カード」を取得し、「パノラマ大水槽ダイビング」実施日を予約することができる。実施は生物の状態等で受付を中止することもあるが基本的には1年中行い、1名の引率者と最大4名の参加者は約40分間潜水する。実施回数は開館時間の季節変更に伴い増減するが、最大1日3回の参加枠を設けた。実施から約3ヶ月間にわたり、同企画に対する満足度と安全対策に対するご意見を頂くことを目的に参加者151名に対してアンケート調査を行った結果、99%の参加者に企画を満足して頂き、97%の参加者から安全対策の内容に満足を得た。